

第 1 回  
日 本 腰 痛 研 究 会

平成 5 年 11 月 13 日 (土)  
神戸国際会議場メイン・ホール

会長 栗 原 章  
神戸労災病院 整形外科

## 第1回日本腰痛研究会開催にあたって

会 長 栗 原 章

腰痛は、整形外科医が取り扱う疾患の中で最も多いものであり、しかも、その大多数のものは、保存的に治療されている。それにもかかわらず、腰痛の保存的治療に関する治療方法、治療成績、予後などについての報告は、観血的治療についてのそれに比較してきわめて少なく、保存的治療についての整形外科医としてのコンセンサスをえる機会にも恵まれていません。また、腰痛について基礎的研究者と臨床家が一堂に会して討論する機会は、学会、研究会の増加と細分化によって減少しています。さらに、職業性腰痛に対する関心は、衛生学、公衆衛生学領域の研究者に高く、日常診療で腰痛患者を多く扱っている整形外科医は、等閑視してきたきらいがあります。これは、整形外科医が、診療におわれる多忙な毎日を送っているためや発表の機会に恵まれなかったためともいえましょう。

大井淑雄、白井康政両教授は、このような現状と日本整形外科学会の委員会活動や労働省とのかかわりから、整形外科医が今まであまり顧みてきていない腰痛の疫学、保存的治療、予防、さらには、職業性腰痛に対する研究の発展のための研究会の必要性を痛感され、発起人会をもたれました。その後、両教授の御尽力で日本腰痛研究会の設立発会式が、本年4月8日に開催され、本研究会が正式に発足いたしました。

私が、昨年10月の発起人会の席上、第1回の本研究会の会長をはからずも命ぜられ、以後、神戸労災病院整形外科をあげて、研究会に向けて鋭意準備してまいりました。準備期間も短く、初回でもありますので、テーマをとくにもうけず、腰痛の疫学、保存的治療、予防を主眼にした、あるいは、職業性腰痛に関する演題を募集しました。幸い40題の応募があり、整形外科医も、この方面に対する関心は決して低くないことがうかがわれ、喜ばしいことと思っております。招待講演は、職業性腰痛の第1人者でありますM. H. Pope教授に「Occupational Low Back Pain - What Should the Orthopaedist Know and Do ?」というテーマでお願いしております。私達整形外科医が、今後とるべき道標となることと期待しております。

日本腰痛研究会は、腰痛の中で、前述のごとく整形外科医が今まであまり重視してきていなかったテーマをほりさげて研究することを目的にしています。いずれは、衛生学、公衆衛生学などの方々の御参加もえて、本邦における腰痛の予防、再発防止、診断、治療が確立されることを希望するものであります。この点を御理解の上、本研究会の発展にご協力下さるようお願いいたします。

初めての、しかも、手作りの研究会でありますので、何かと不都合なこともあると思いますが、皆様の御協力と活発な討論によって実り多い研究会となることを期待しております。